

市民学習会 子どもたちの心が評価されます 来年度から「道徳」が教科になります

次の学習指導要領では道徳が教科となります。そのため、今年度は小学校で、文部科学省の検定を受けた道徳の教科書の中から教科書採択が行われます。6月10日(土)に行われた市民学習会では、文科省の検定に合格した教科書の様々な問題点を、子どもと教科書大阪ネット21事務局次長の永石 幸司さんからうかがいました。

何か変じやない？ 科学的でない、

左は、どの教科書にも掲載されている「かぼちゃのつる」の挿絵です。まわりから注意されても言うことを聞かずに、つるをどんどんのぼしていったかぼちゃが、トラックにひかれて「いたいよ」となってしまうお話です。

「わがままはいけないよね」「まわりのちゅういをきいて、がまんしよう」と、子どもたちに教えようとしています。

他にも、「百羽のツル」(東書3年) (あかつき3年) (光文4年)、「生きていくなかま」(光村3年)など、動物や植物を擬人化した題材がたくさんありますが、

「かぼちゃのつるって自然に伸びていくものだよ。そんな意識あるの?」「『痛いよ』って泣くわけないよ」、といく子どももの反論が聞こえてきそうです。

また、「生命や自然、崇高なものに感動する心」の項目で、科学的な認識を身につけることにつながらない題材が多くみつけられます。

「水も喉を通ってくださる」「いのち在らしめられてる」など、気になる表現の詩も掲載され

ています。(「生かされてる『大切な命』」教出6年)

作法のマニユアル本?

内容項目【礼儀】の教材として、お辞儀の仕方を例示している教科書も多く見られます。

「体を60度くらい前にかたむける」という記述もあり、道徳の教科書というよりも作法のマニユアル本のような印象さえ受けてしまいます。お辞儀やマナーは、その時の心理状態



や相手への気持ちにもありますが、教科書に示されたもの以外は正しくないとなってしまうかもしれません。

中には、「正しいあいさつ」のスキルとして、挨拶のしかたを3つの中から選ばせている教科書があります。(「身につけよう れいぎ・マナー」)

教出2年) 挨拶をする子どもたちの気持ちが大切なのであって、挨拶の仕方一つ選ぶ必要があるのでしょうか。



「せめて、40人以下の学級に」署名

泉北教組のOBの方から、おはがきをいただきました。

署名用紙を送ってください。

5月頃、近くのお母さんたちが、忠岡小学校の3年生が1クラスになって、「今まで2クラスだったのに子どもが勉強が分からなくなる」不安を語っておられました。

私は今の制度を説明しこんな問題はPTAでも取り組むことができますよね。と、みなさんとお話ししました。

忠岡のように小さな町は、子どもにもっと手厚い施策をとってほしいと思います。3年生が41人で1クラス、次々とこんな状態が起こってくるのではないかと心配しています。障がいのある子をもっている親御さんも怒っています。

8月中旬に提出予定です。署名用紙が必要な方はご連絡ください。引き続き、皆様のご協力をお願いします。

教職員の生活と権利を守るため、泉北教組に加入してください。